

## 平成 20 年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

## 【全般】

問題作成にあたっては、中学校学習指導要領に沿い、中学校の日頃の学習で積み上げられた基礎学力をはかるものであるとともに、単なる知識だけではなく、思考力、判断力、表現力、分析力等を問うことができるものとなるよう、配慮した。

学力検査の平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は 273.7 点で昨年度に比べて 25.2 点低下しているが、これは、理科以外の 4 教科の平均点が下がったことによる。理科の平均点が 63.9 点（昨年度 58.8 点）と昨年度に比べて 5.1 点上昇した一方で、特に、数学の平均点が 40.2 点（昨年度 57.9 点）と昨年度に比べて 17.7 点低下したことが目立つ。

## 【国語】

文章を読んで大筋を把握する力、話を聞き取って内容や展開を理解する力について、中学校での継続的な学習の成果がみられた。また、作文に取り組む姿勢についても概ね良好であった。しかし、分量のある論理的な文章を読みこなす力、出題の意図や条件を踏まえて的確にまとめる力及び語彙力には個人差がみられ、漢字等の正確な表記や、文をきちんと完結させるという点にも課題が残った。今後は、言語事項の基本を丁寧に押さえた上で、長めの文章を読みこんだり、条件に応じて適切に表現したりする学習が望まれる。

## 【社会】

全体をとおして、基本事項を問う問題の正答率は高く、基本的な知識をもとにグラフ・資料・写真等から判断する力は概ね身につけていると考えられる。分野別に見ると、地理的分野の正答率が低く、日本や世界の地理的事象についての理解に個人差がみられた。また、例年に比べて、文章記述で解答する問題についての無答が少なく、受験生の解答しようとする意欲が感じられた。しかし、記述内容は不十分なものが多く、諸事象を正しく理解し、ポイントを的確にとらえて表現する力を伸ばすことが望まれる。

## 【数学】

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能は概ね定着している。しかし、必要な情報を適切に選択し式を立てる力や、多面的にものを見る力、論理的に考え、目的に応じて計算したり式を変形したりする力を問う問題については正答率が低かった。今後は、これらの力を伸ばすとともに、自ら調べ判断する力や、粘り強く考え続け、考えたことを相手に分かるように説明する力の育成を図ることが望まれる。

## 【理科】

第 1 問題は短い語句で解答する記述問題や、記号による選択問題を集めた構成であり、その正答率は 74.5% に及んでいる。反面、第 2 問題以降の科学的な思考力を問う問題や、論理的に筋道を立てて記述する問題、グラフを作成する問題などでは正答率が低く、6.7%～26.0%であった。これらの点から、個々の事象に対する科学的知識や語句の理解、観察・実験に関する基礎的な理解は深まれていると考えられるが、それらに基づく科学的思考力や、考察した結果を整理し正確に伝える能力を育成する学習を工夫することが望まれる。

## 【英語】

聞き取る英文の量、速さともやや程度の高いいリスニング問題であったが、昨年度入試と同様に、正答率は高く、英文を聞いてその概要を聞き取る力は定着している。英語で表現する力については十分とはいえない状況が続いているが、昨年度入試に比べ正答率が上昇したことから、中学校での指導の成果があがりつつあるといえる。また、分量のある英文を読んで概要を把握する力は概ね良好な状況であったが、今後は中心となることなどがらなど大切な部分をとらえて的確に読み取る力を育成することが望まれる。